

科目名/提供大学名	学問の入り口／福井大学
科目名(英文)	Making Questions for Academic Study
対象学年	原則として、全学年
開講時期	前期・水曜5限目
単位数	2単位
科目区分	選択(教養教育科目群:「人間理解・言語コミュニケーション分野」)
授業形態・開講形態	講義
担当教員名	末本 哲雄
オフィスアワー	講義の前後に質問等を受け付けます。
教員メールアドレス	suemoto@u-fukui.ac.jp
概要	現代は知識基盤社会と言われていています。この時代に大学生となった皆さんには、多くの知識を記憶し、理解することを前提に、それらを使って様々な現象を解釈したり、答えの定まらない課題に妥当な解を与えたりすることが求められます。そのような学習活動に資するよう、この授業では思考の始まりである「問い」に関する力量を高めます。学びの成果や課題解決の精度は「どのような問いを立てたか」に強く依存します。そのため、「よい問いを作れる」という能力は、自らの理解を促すためにも、ブレイクスルーを生み出すためにも、今後ますます重要視されるでしょう。 この授業は、「問いをつくって理解する」「文学的な探求」「科学的な探求」をテーマとする3つの区分から成っており、素朴な探求活動の中で皆さんがそれぞれに問いと吟味を繰り返すように構成されています。学期を通し、「自ら学びを深めていくための考え方と手法を身につけること」が本授業の目的です。併せて、探求の基礎となる考え方、仮説と検証の作法、学問知識の在り様について気づきを得る機会にしたいと考えています。
学習・教育目標との関連	各大学の目標との関連は、科目の提供大学側では書けないと思われます。
授業目標・目的	学生が自分自身で思考を促す「問い」を作り、自ら学びを深めていくためのコツをつかむことがこの授業の目標です。併せて、探求活動の基礎となる仮説検証および他者との協調的な学習を実践する機会として設定しています。
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)	<input type="checkbox"/> 他者の理解能力 <input type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input type="checkbox"/> 情報収集・探索能力 <input type="checkbox"/> 社会・職業理解能力 <input checked="" type="checkbox"/> 役割把握・認識能力 <input type="checkbox"/> 計画実行能力 <input checked="" type="checkbox"/> 選択能力 <input checked="" type="checkbox"/> 課題解決能力
学生の目標・到達目標	○文学作品(物語)を深く理解するための問いを自ら立て、検討事項を構造化し、筋道の通った推理を行い、結論を導くことができる ○その探求を通して得た解釈や気づきを口頭および文書で説明することができる ○自然科学分野における科学者の営み(問いの発見、仮説の立案、検証の実施、結果の報告)を実践することができる ○アイデアの提供や配慮ある働きかけを通し、グループの知識創造に貢献するふるまいを継続的に示すことができる ○学習活動を振り返り、自分なりに発見した「他の科目でも転用できる考え方や技能」「視野の広がり」「学問知識に対する認識」などを、詳細なエピソードとともに自分の言葉で表現することができる
授業計画・授業内容	ガイダンス 01. [講義] 授業の概要を聞き、不明な点を確認する。事前調査 第1部 問いを作って理解する 02. [活動] QFT(Question Formulation Technique)を体験する 03. [活動] QFTを実践する。問いの質を高める 04. [講義] 熟達者の特徴を学ぶ 第2部 文学の探求～小学校国語の物語教材を読んで～ 05. [議論] (1) あらすじを確認する。問いを作り、共有する 06. [議論] (2) 末本からの問いに対する主張を考え、討議する 07. [議論] (3) 各自が問いを提供し、議論を引き起こす 08. [講義] 中間の振り返りを行う。歌詞分析への準備を行う 09. [議論] J-POPの歌詞分析1(作った問いを吟味し合う) 10. [議論] J-POPの歌詞分析2(探求成果を発表し合う) 第3部 科学の探求～紙工作を題材に～ 11. [製作] 探求活動(試行錯誤し、多くの検証を記録する) 12. [発表] 学会発表(経験則や意義ある発見を口頭発表する) 13. [製作] 探求活動の続き 14. [競技] 完成品を作り上げ、性能を測定する まとめ 15. [議論] 授業全体を振り返り、学びを確認する。授業評価
授業方法	○教員が一方向的に話すだけにならないように、学生が意見を述べる機会を頻りに設けます ○学生同士で問いや答えを吟味したり、議論を通じて新しい知識を創造したりする時間が多くあります
キーワード	問い、探求活動、仮説検証、知識創造、メタ認知
教科書	教材は教室で配布します。推奨図書一覧を特設サイトに掲載します。
参考書	指定しない
評価方法・評価基準	○歌詞分析レポート(A4紙4ページ程度)・・・25% ○実験レポート(検証の記録となるミニレポートの数)・・・最大25% ○研究報告書(完成品の設計図と性能:A4紙2-3ページ程度)・・・5% ○授業への貢献(コメントカードの内容、議論への関与、口頭発表の内容と表現、宿題提出による学習素材の提供など)・・・15% ○授業全体の振り返りレポート(A4紙4.5ページ以上)・・・30%
関連科目	特になし
履修の要件	特になし

<p>必要な事前・事後学習</p>	<p>他の授業と関連づけられる事柄や転用可能な考え方に気づいたら、そのエピソードをメモし、保管しておいて下さい。授業全体の振り返りレポートで役立ちます。 宿題を素材に議論したり、発表したりします。授業を成立させるためにも忘れないようにして下さい。 06→07:グループ議論に出す問いとそれに注目した理由を簡潔に書き表す。議論の進行役としてのイメージトレーニングを行う 07→08:グループで分析する歌詞を決定するため、各自が10曲程度の候補をリスト化する 08→09:グループで選んだ歌詞について、問いづくりを行い、自分なりの回答を簡潔に書き添える 09→10:教室での議論を踏まえ、歌詞分析レポートを作成する。さらに、その内容を5分程度でグループメンバーに紹介する際に使う説明用資料(A4紙1ページ以内)を作成する。 11→12:学会発表として、自身の発見や検証を口頭発表する際に使うスライドを作成する。発表の練習をする 12→13:Webサイト上で他者の発表への評価コメントを記入する 14→15:研究報告書を作成する 15→終:授業全体の振り返りレポートを作成する</p>
<p>その他・注意事項</p>	<p>○県内大学の連携授業として、JR福井駅横「AOSSA」で行います ○講義スライド・追加資料の掲載やレポートの提出窓口として、特設Webサイトを使用します(https://www.gakumon.link/) ○第3～4回目までにはeメールを使えるようにしておいて下さい(ファイルを添付するため、パソコンの利用を強く要望します)</p>